

仕事と介護に関する従業員ニーズ調査結果報告書

株式会社ライザス

実施日：2015年 11月

調査対象：全従業員（4名）回収率100%

1. 調査結果の概要

【介護経験及び介護の可能性】

- ・ 4人中3人が介護経験なしと回答
- ・ 介護経験なしと回答した3人中2人が「今後5年間のうちに介護する可能性が少しある」「介護に関して不安がある」と回答

【介護の不安と望ましい働き方】

- ・ 4人中3人が介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、できるだけ普通に働き続けながら仕事と介護を両立したいと回答
- ・ 仕事を辞めて介護に専念すると考えるものはいなかった

【介護支援制度の周知度】

- ・ 公的介護保険制度について4人中2人は、介護保険サービスを受けられるのは、原則65歳以上であることを知っているとは回答
- ・ 4人中2人は介護保険サービスを利用した場合の自己負担割合は原則1割であることを知っているとは回答
- ・ 4人中2人は公的保険制度のことについて何も知識がないとは回答
- ・ 地域包括支援センターについては、4人中2人が名称は聞いたことがあるが、利用法は知らないとは回答
- ・ 4人中2人は名称も利用方法も知らないとは回答
- ・ 会社の介護に関する支援制度について、4人中3人は制度があるかどうか知らないとは回答

【仕事や職場の状況】

- ・ 残業時間について4人中2人は恒常的に残業がある、週に半分は残業があるも2人が回答
- ・ 年次有給休暇の取得については4人中4人が希望通りに取れたとは回答
- ・ コミュニケーションについては、上司、同僚や部下においても4人中4人が円滑であると回答

2. 調査結果からの課題

ほとんどの社員が介護を行ったことがなく、介護保険制度などよく知らない、介護の窓口となる地域包括支援センターに関してはほとんど知らない、という介護に関する基本的な情報不足が見受けられる。会社の制度に関しても社員が知らないことが判明、社員への周知が必要。また、介護が発生した際には仕事と介護の両立をしたいというニーズが多いが、現在のところ短時間勤務などが制度化されていない為、実際には両立が難しい可能性がある。長時間労働削減に向けた取り組みも必要である。